



I can't hate you.

Sadamoto-EVA Fan Book
KAWORU×SHINJI
Tetsu-Sabi

2013/08 Summer



我らの希望タプリス
時はすぐそこまで
来ている

期が熟すその時に
我らの願いを
叶えたまえ

わかっているぞ……

アダム之魂を
その身に宿す
最後の希望

黒き月より生まれし
愚かな人類に
三度の報いの時を

僕には
自由に生きること
許されない

タブリス

お前の使命
決して忘れるで
ないぞ

会いたいな…

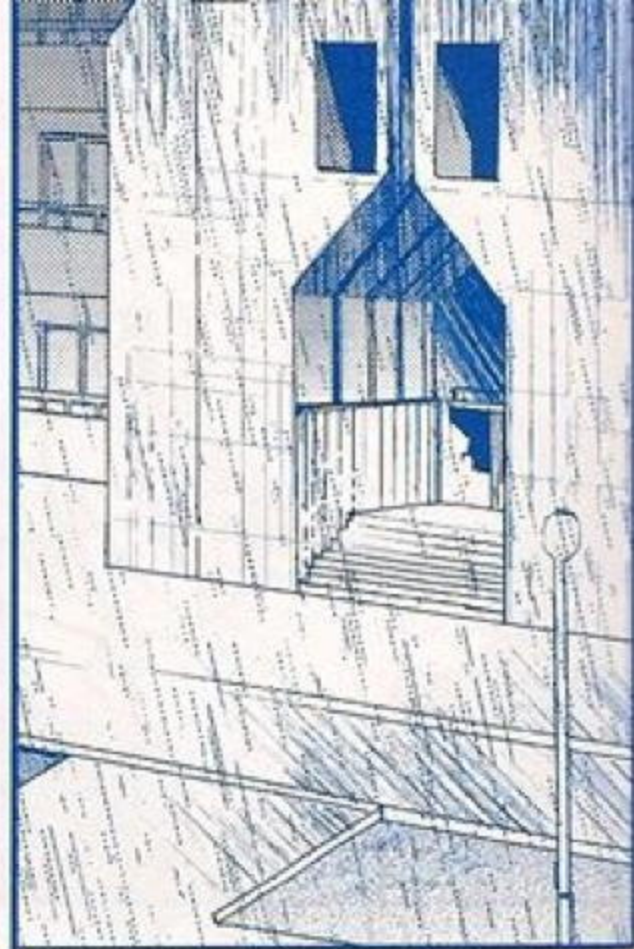
シンジくん…

おそらく今日が
渚カラルの最後の日

ホッ



おかえり
シンジ君…



君には
関係ない



当てようか？
どうせ
ファーストか
セカンドの所だろ？



遅いじゃん
どこ行ってたの？

綾波は
どこにも居ない

アスカはいつも
通りだった



シンジ君...

ついてこないで



ふーん...

6



返せよ!

っていうか
いつの間に

だって
君隙だらけ
なんだもん

ねえ
返して欲しい?

当たり前だろ
それがないと
困るよ



!?



これ
なーんだ



返して
欲しかったらさ
今日だけ僕の言うこと
聞いてよ

もちろん
断れないよね



わかった…

用件は？





渚…



リリンって
好きな人と一緒に
出かけたり、
遊んだりするんでしょ
それをデートって
言うらしいじゃん

一度やって
見たかったんだよね



どうして
デートなの？



僕は君のこと
好きだなんて
思っていない

でも僕は君のこと
好きだし

だから
僕にとっては
デートなの

褒めてんの？

ほんと君って
自分勝手っていうか
マイペースっていうか…

褒めてない。



まあまあ
たまにはいいじゃん！

羽を伸ばすのもさ

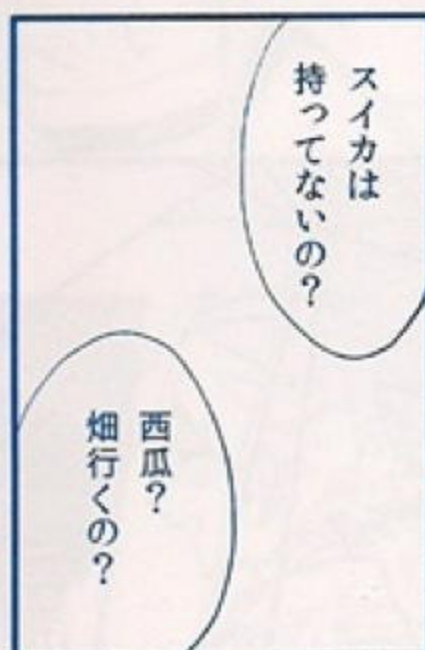


今日一日
付き合ってくれたら
セキュリティカードは
ちゃんと返すよ

……



はい。



スイカは
持っていないの？

西瓜？
畑行くの？



ないけど？

どうやってって
乗ったことないの？



そうじゃなくて……

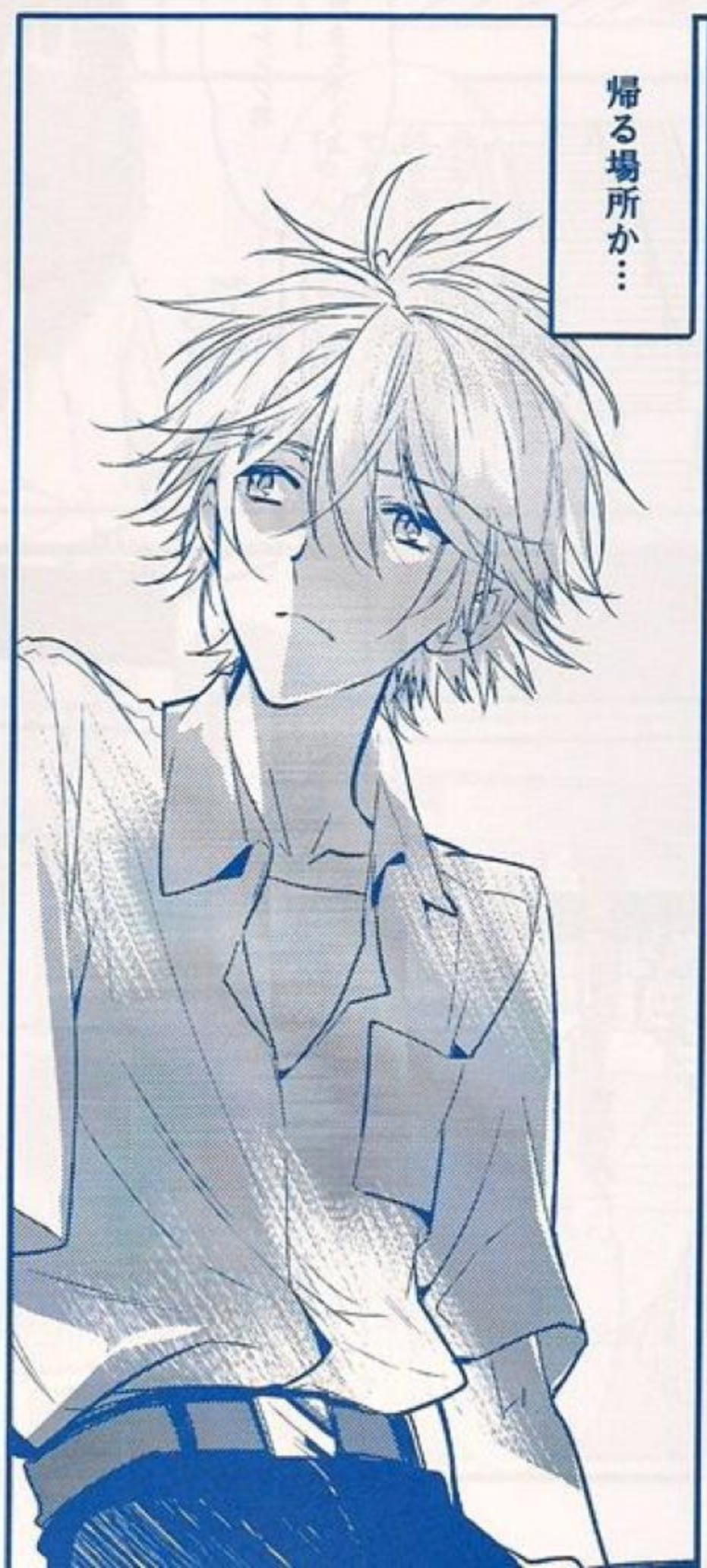
じゃあその
券売機で
切符買いなよ

ああもう！
分かった
教えてやるから

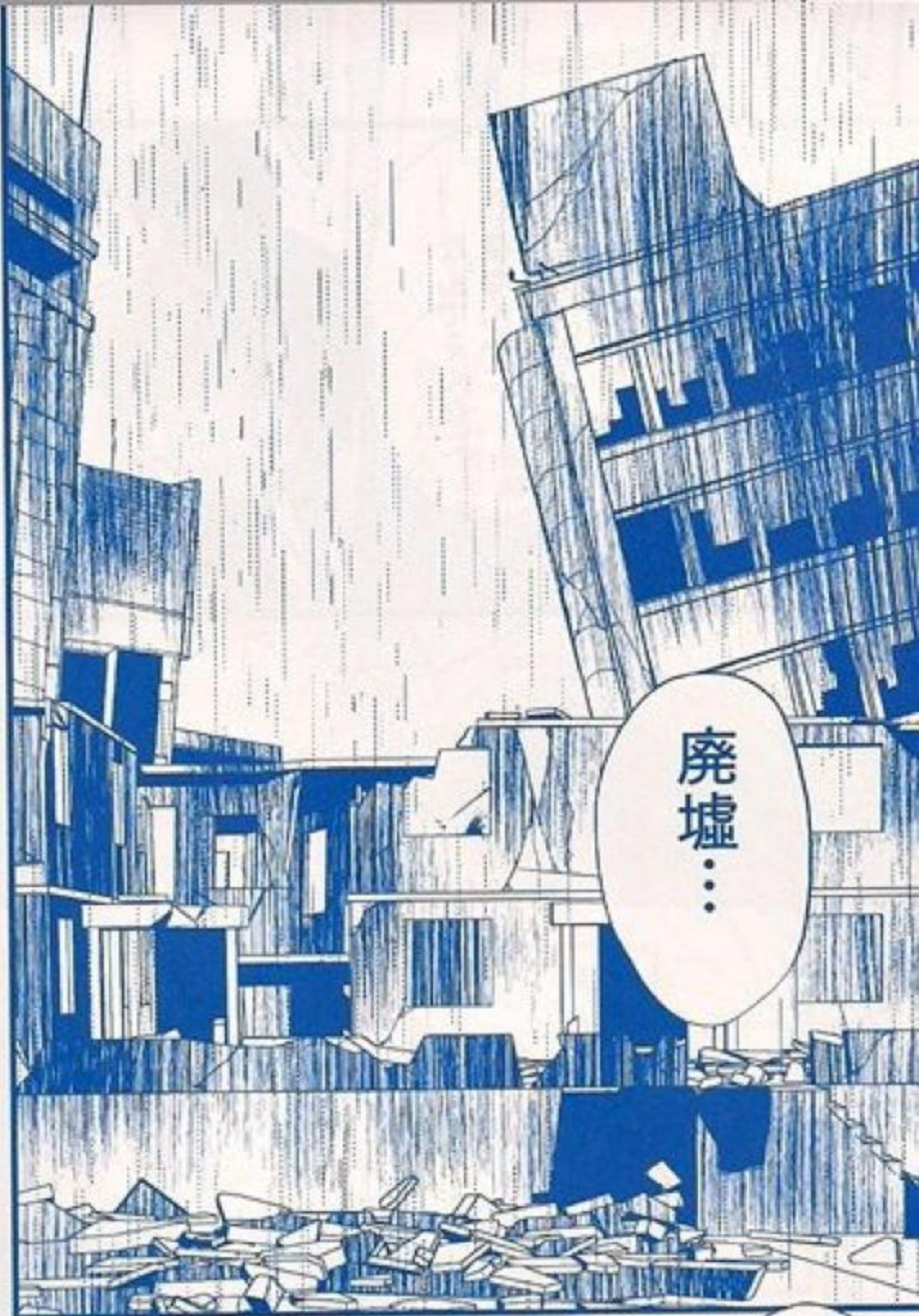


ねえシンジ君
電車って
どうやって乗るの？









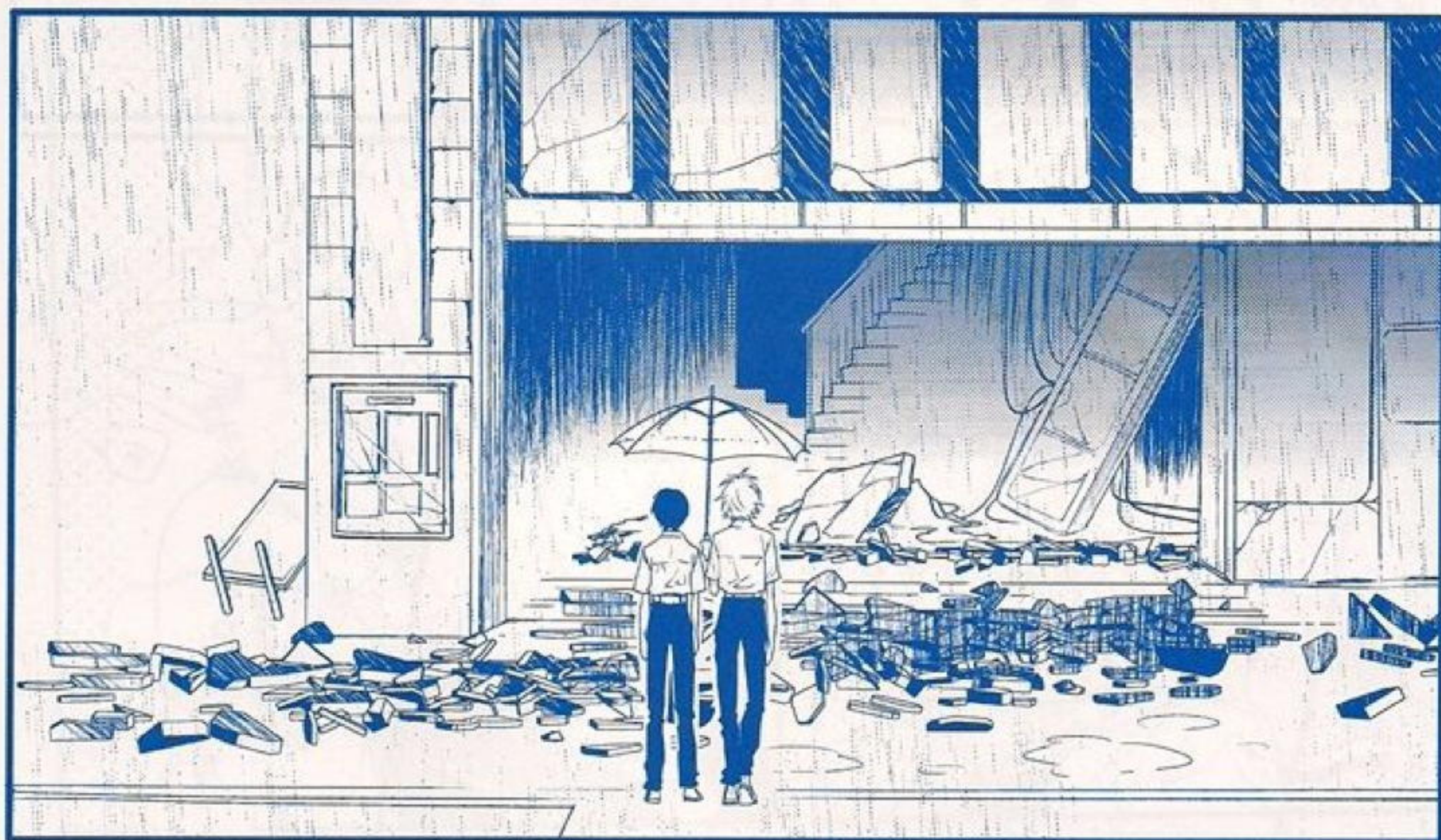


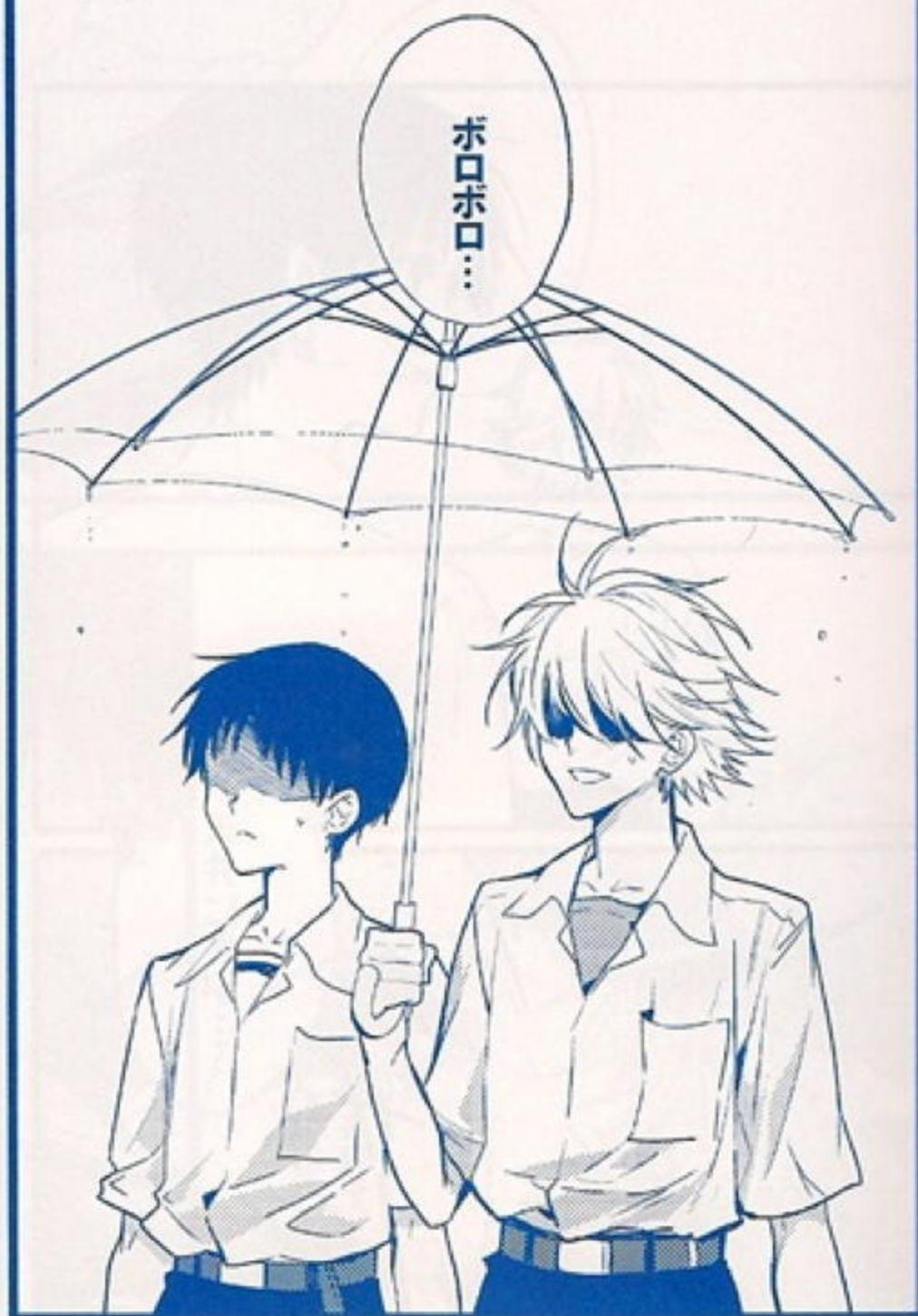


人の話聞いてた？
この町には誰も
住んでないのに
映画なんか！



いいから





うわあ
ホコリくさいし
カビくさい

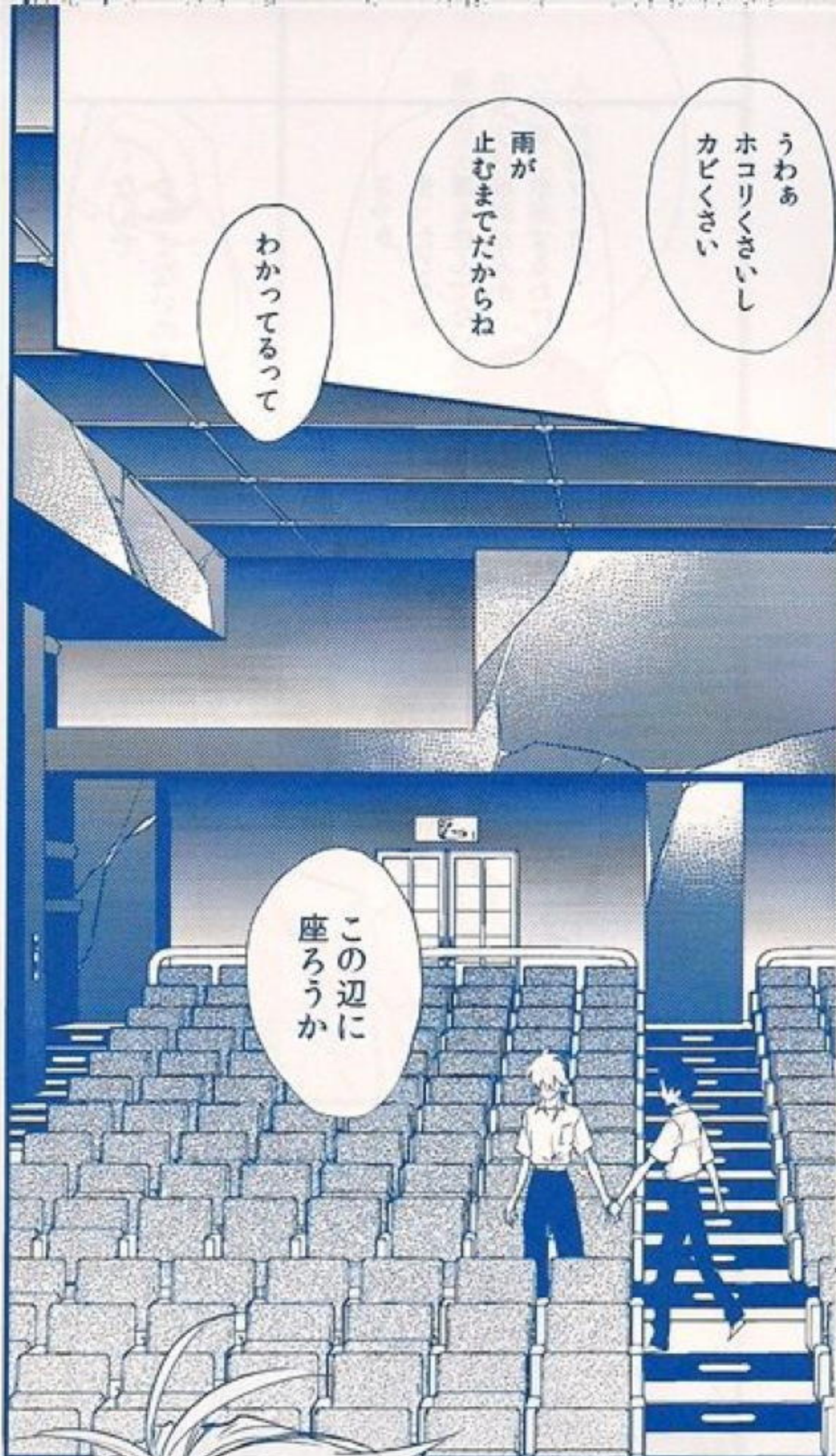
雨が
止むまでだからね

わかってるって



天井に穴が…

ほんとに
ボロボロだね
光が入ってくるのは
助かるけど



この辺に
座ろうか

君はあのとき…

猫を殺した



覚えてる？

君と初めて
出会ったのも
天井が吹き飛んだ
ぼろぼろの
協会跡だったね







いめん…

君を
怒らせたい
わけじゃないんだ

そうだね

情けなんて
かける方が
間違ってる…

君の行いは
正しい



生き続けるために
生き残るのって

死ぬより
大変なのかも
しれないね



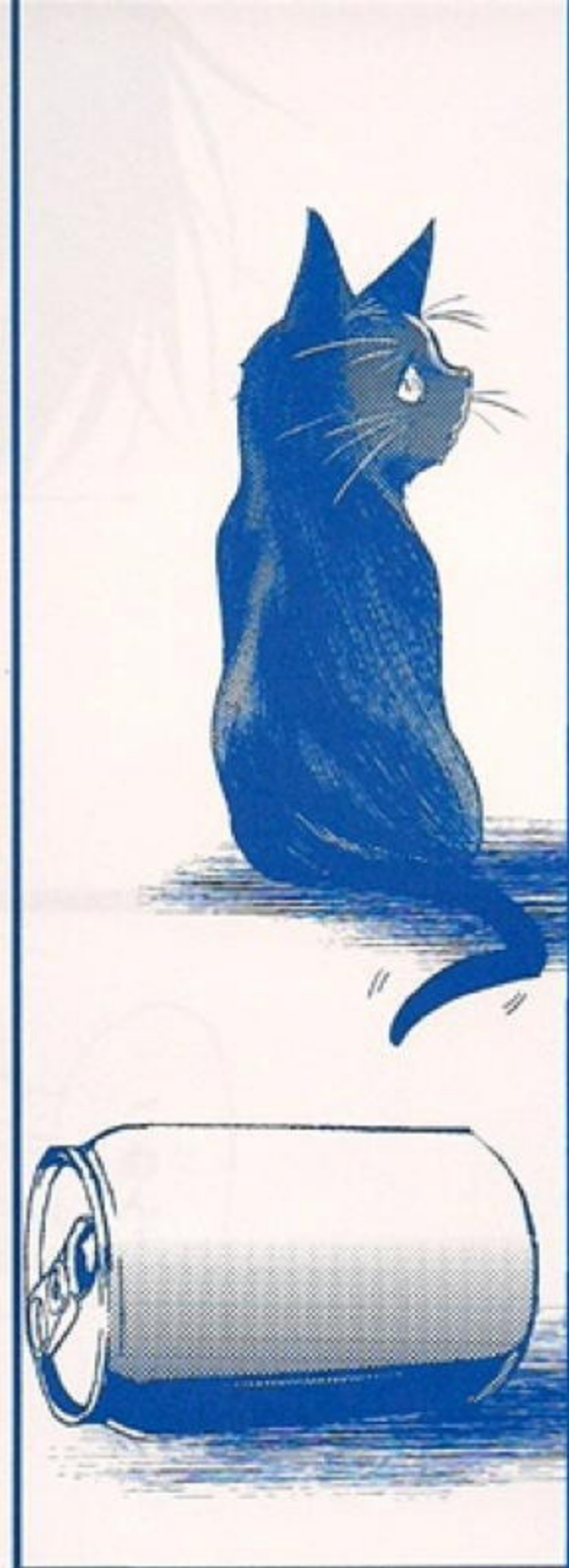
ほっ



シンジ君
今の見た？

場外
ホームラン！





茶色の目

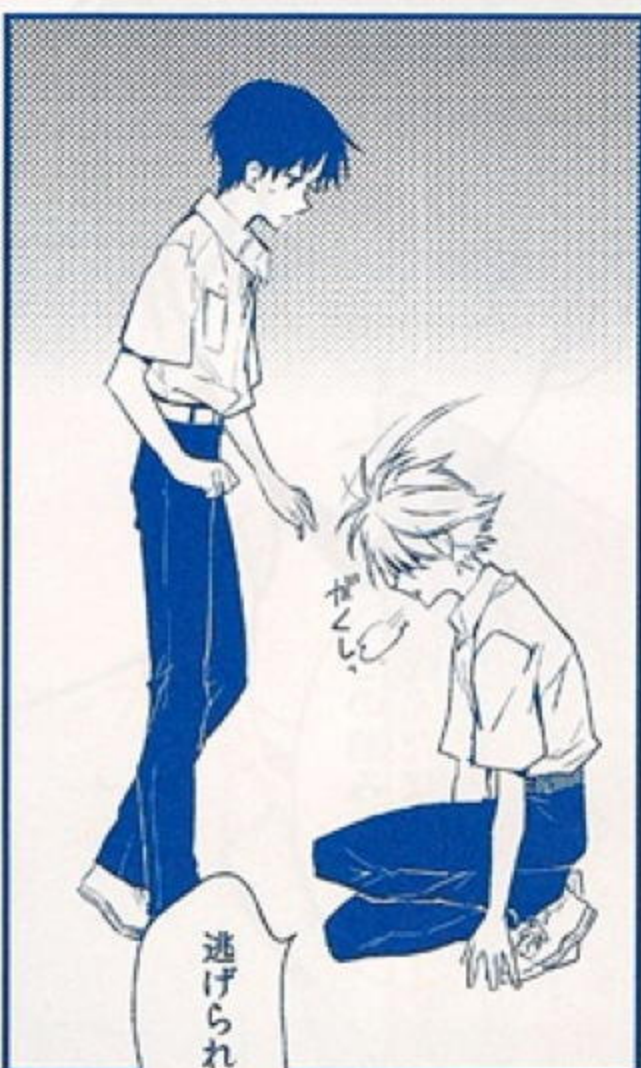
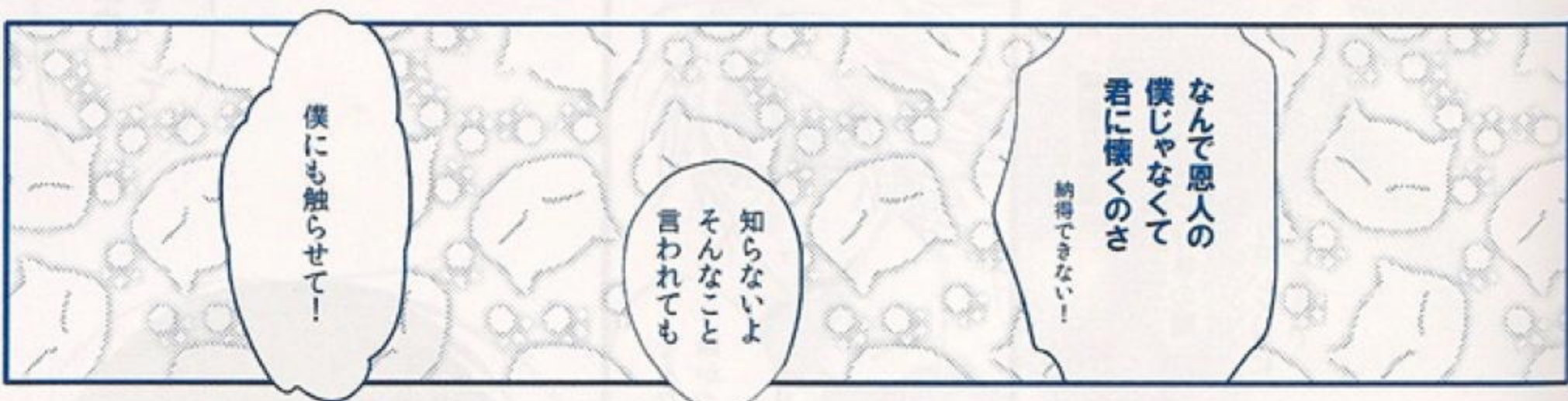
黒毛に...



危ない！







殺されると
思ったんじゃないの

殺す？
どうして

そんなつもり
無かったのに

この前みたいに
死んだほうが
マシだって…

絞め殺されると
思ったのかもよ
あの猫

あの猫
シンジくん
に似てたし

？

黒い綺麗な毛並

こげ茶の瞳

小さいくせに
逞しそうで

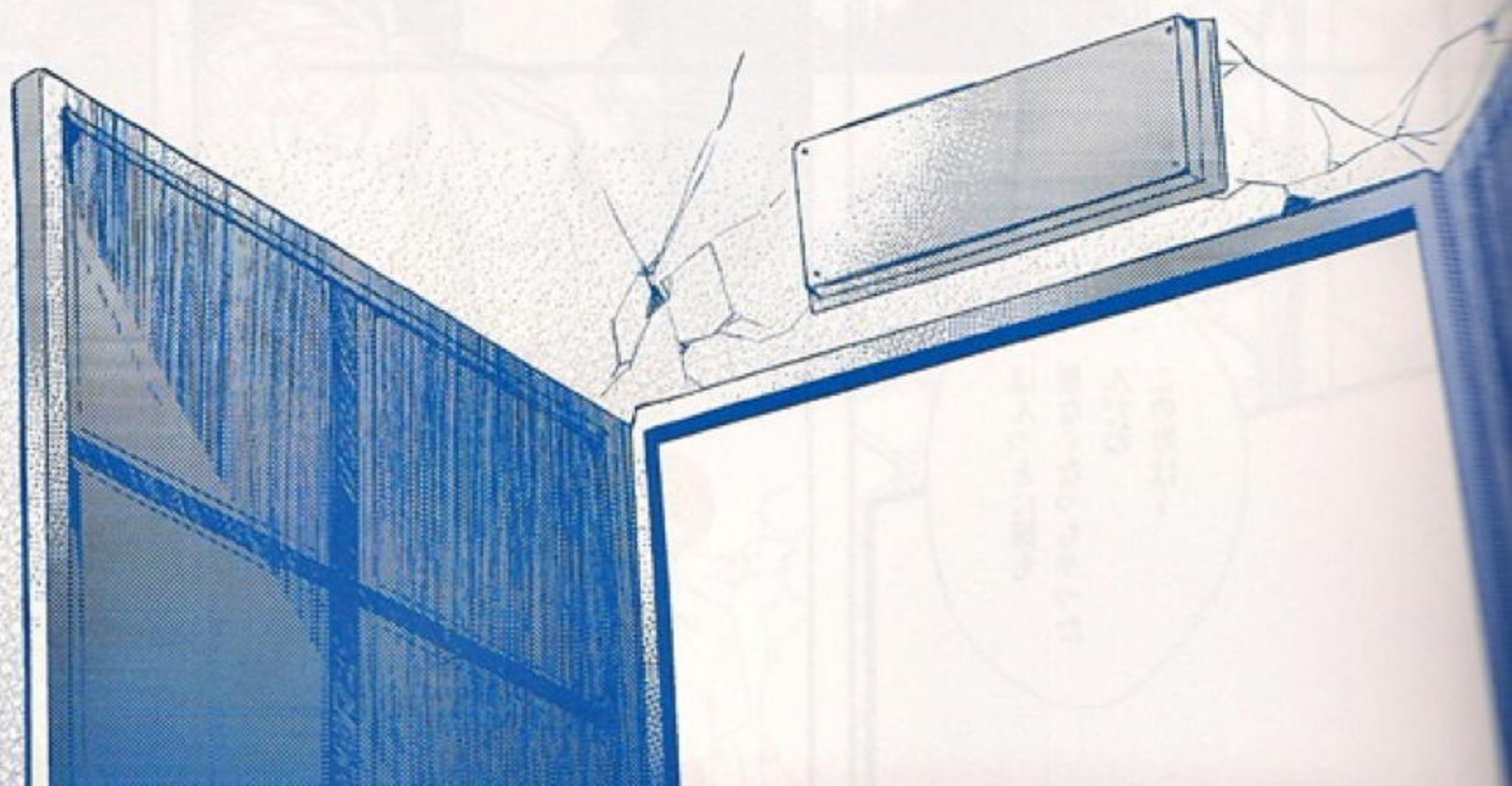
あと僕に
懐かないとことか

僕はシンジくんが
好きだから



あの仔猫には
死んでほしくないなって

...そう思うよ



晴れたあ！

ちよつと
歩こうか

立入禁止

ほんつとに誰も
居なくなっちゃった
んだね
この町は…



いっそ全てを捨てて
二人で逃避行でも
しれみない？



まるで
この世界に
僕たちだけみたい



...



なんてね
冗談だよ

渚…
何かあったの？





死海文書に予言された
使徒とアダムの
接触による
サードインパクトを
防ぐために

エヴァのパイロットは
全ての使徒を
滅ぼさなければ
ならない

仕組まれた子供って
言われてるだろ
僕たち

使徒を殲滅する為に
エヴァに乗る

人が生き残るために

君も僕も
運命を仕組まれて
誰かに決められて
生きている

そういうの
バカらしく
思ったことない？

今更じゃないか

どうしてそんな
話をするんだよ



まあね…



仕組まれた運命を
なぞるだけじゃなくて



ただこうして
ネルフもエヴァも
無いところで



君と自由に行動したり
自由におしゃべり
したことって、
あんまり無かっただろ

そうすれば
何か変わるんじゃないかって
思ってたんだ



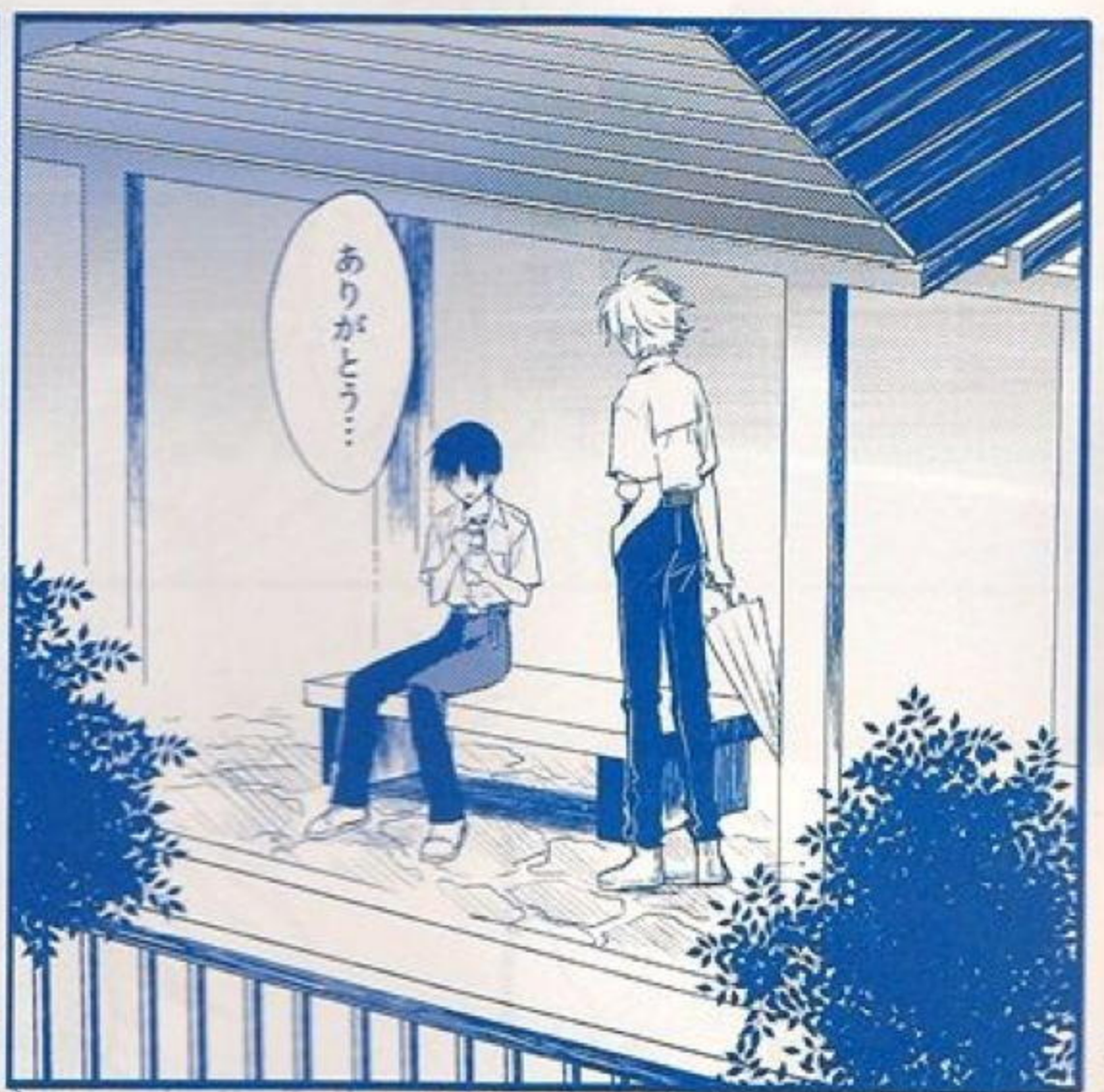




要塞都市が
見渡せるっていう
公園があるんだってさ

はい！







さっきから
全然楽しそうじゃ
ないし...

無理やり
連れ出したこと
怒ってる？

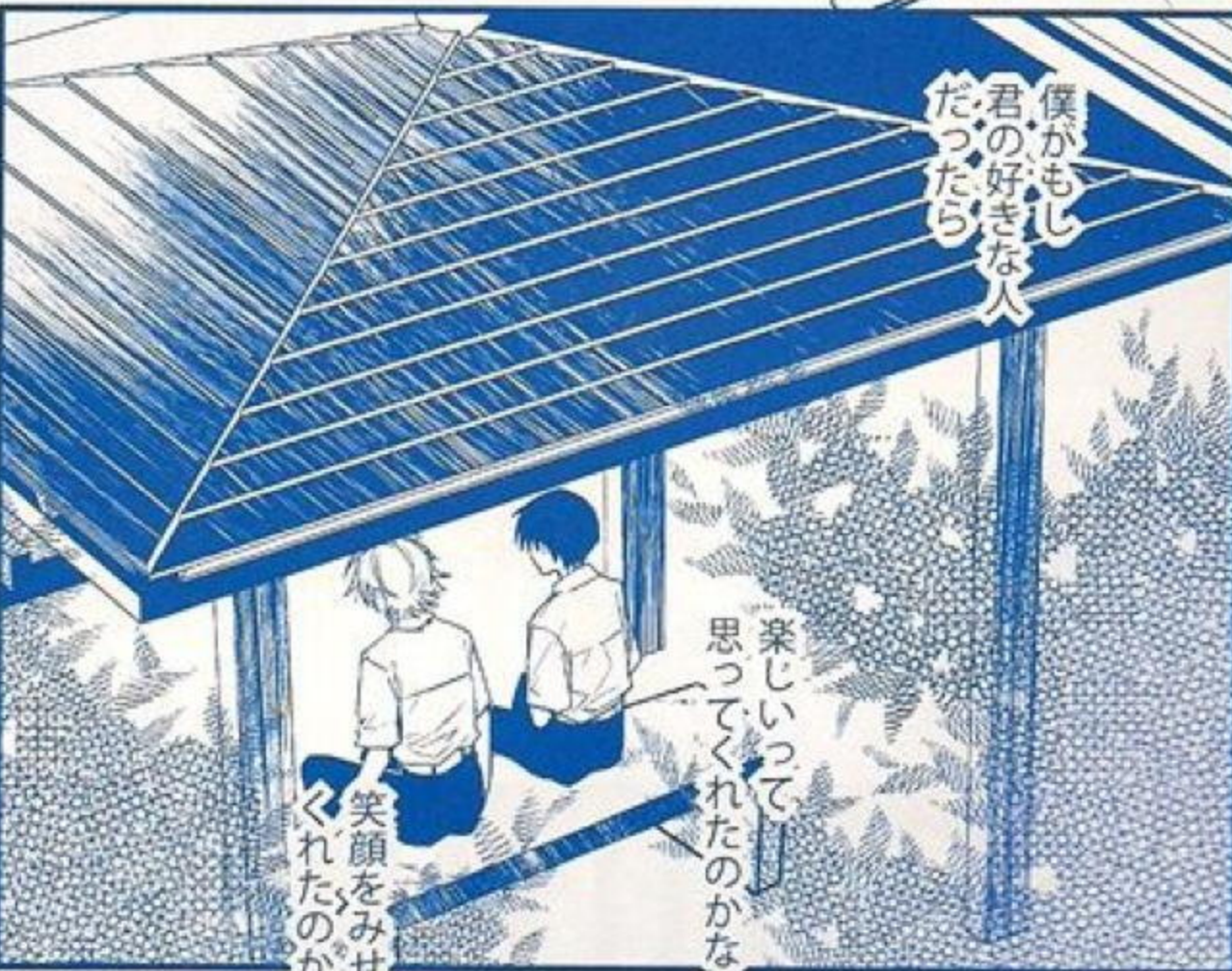


そう...だよな



怒ってない...
だけど

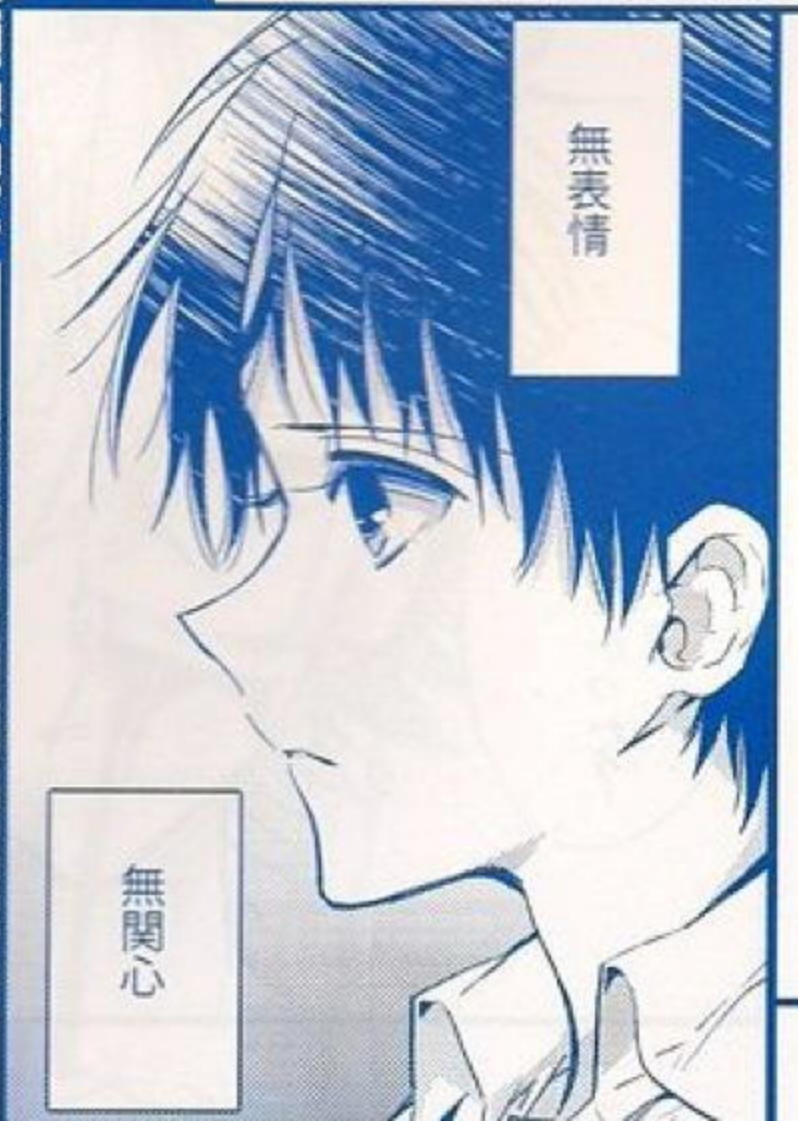
僕の本意じゃないのに
楽しいわけ
ないじゃないか



僕がもし
君の好きな人
だったら

楽しいって
思ってくれたのかな

笑顔をみせて
くれたのかな...



無表情

無関心

シハシハとさ...

好きな人...



君は
僕のことが好き?



今も?



今も...

前にも言った
好きじゃないって



デートで
楽しませることが
できたら……

君に好きになって
もらえるかもって
思ってたのにな……

無駄だよ

僕はもう
他人を好きになんか
ならない

だから
渚を好きに
なったりしない

こんなこと
最初から
無意味だ



そんなに
僕のことを
嫌いなのか？

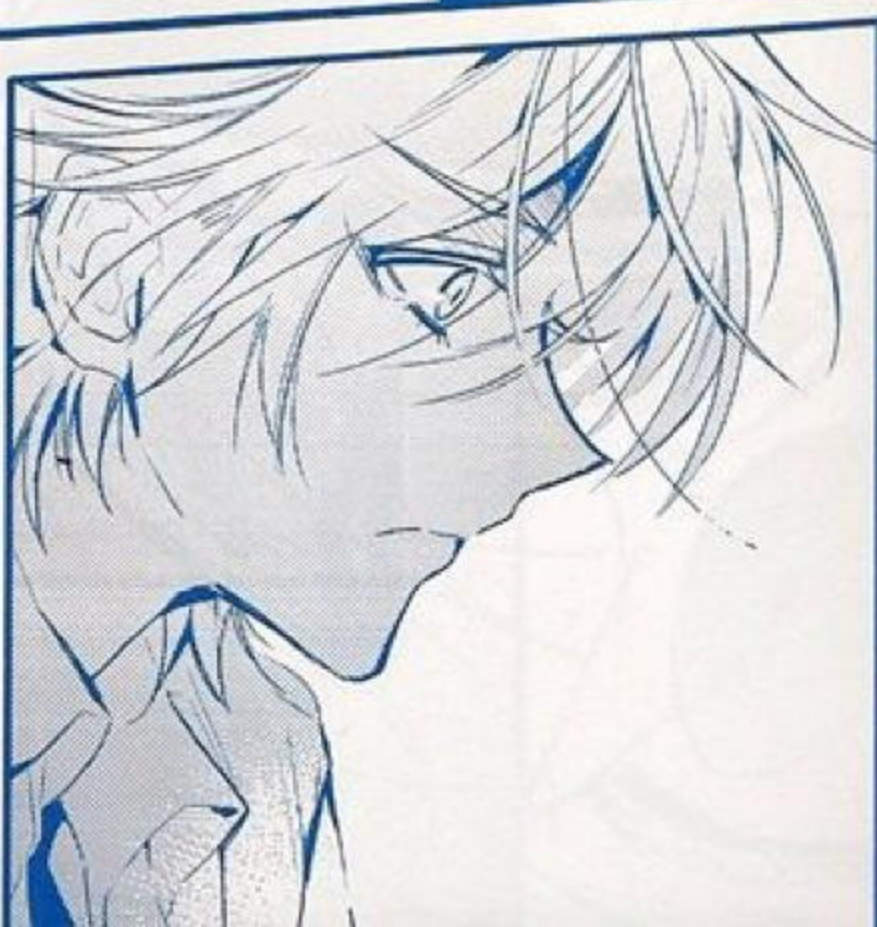
こたえてよ！



失う苦しみを
味わうのは

もうたくさんだ







よかったね？

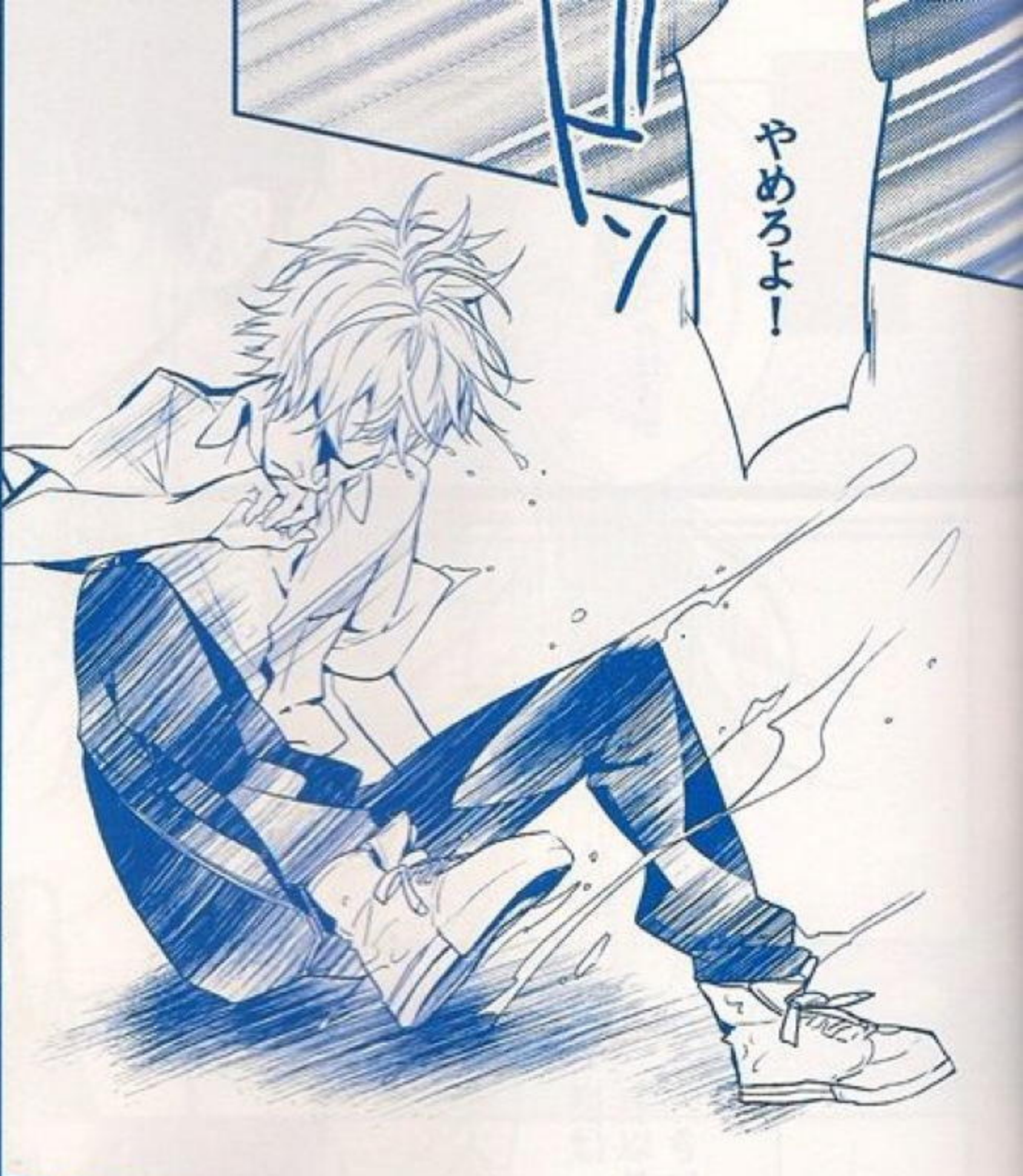
どうしてそんな…
他人事みたいにな…！



なんで
わかってくれないの



やっ！



他の誰かを
好きになったほうが
いいよ…

渚は…



僕は
君以外の人間を
好きになる気はない！



ハンカチ…
使いなよ



ごめん…

好きでもない
くせに…

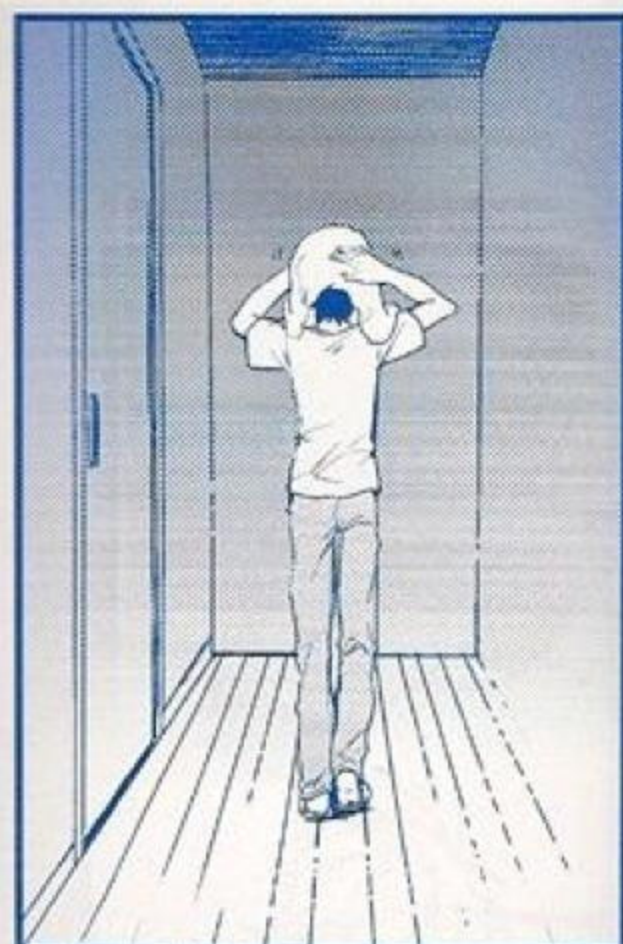
どうして
優しくするんだよ



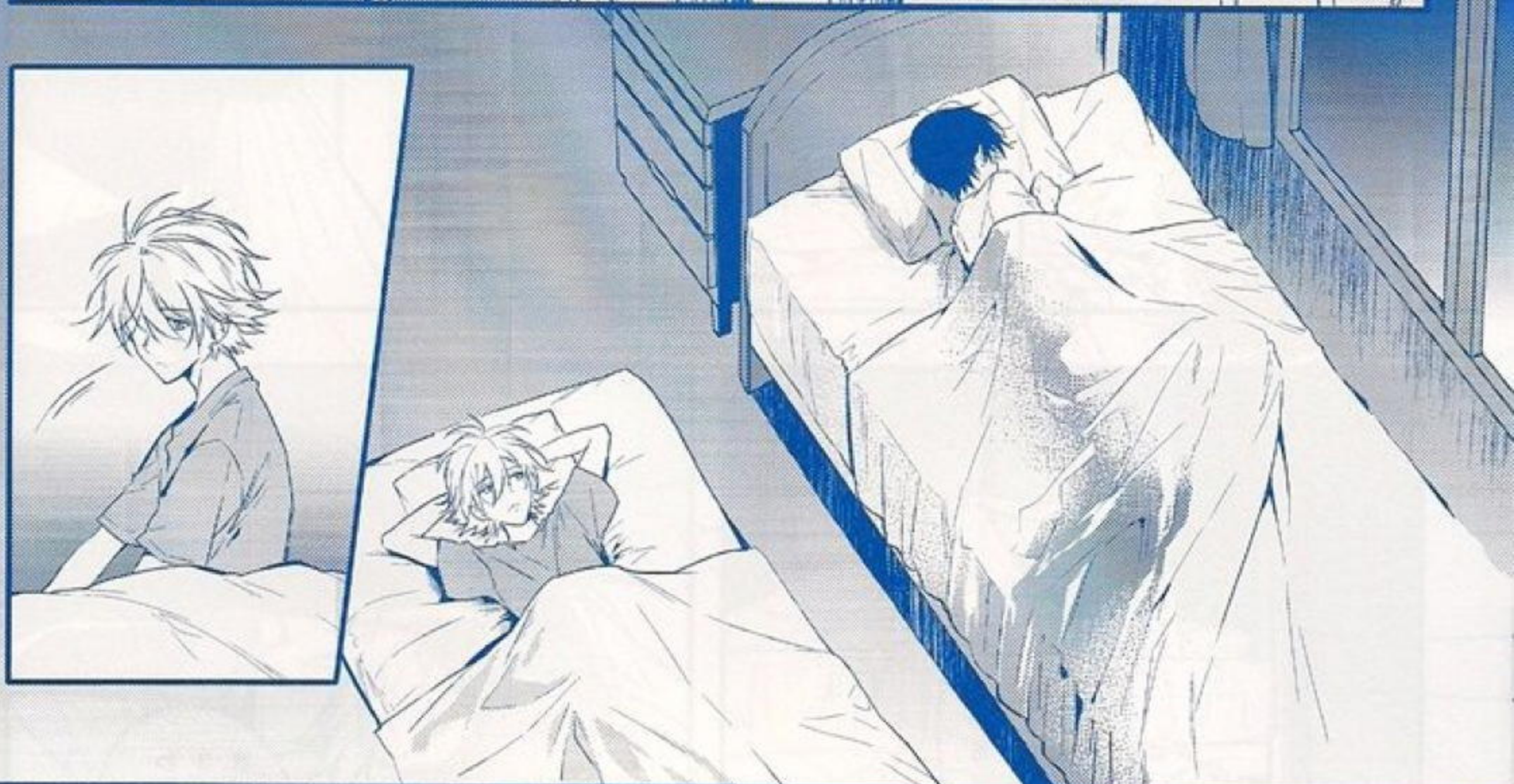
帰ろう…



I can't hate you.



おやすみ



無防備...

寝顔…

かわいいな

結局…
僕は君に
好きになって
貰えなかった…

明日が来れば
全てが終わる

サードインパクトを
起こし、
老人たちが望む世界を
創りだすための
最後の希望

それが
僕が生まれてきた
意味で使命

リリンのように
生きることなど
許されない

生きてるのも
死んでるのも
同じだったのに

生まれて初めて
欲を感じた

シンジ君に
出会うまで
そんなこと
どうでも
よかったのに





ファーストと
セカンドが
羨ましい

傍に居なくせに

壊れたくせに



シンジ君の心の中に
居座り続ける
二人が妬ましい

アスカはいつも
通りだった

綾波は
どこにも居ない



僕を好きになって
くれない君は

明日が過ぎれば
いずれ
僕を忘れてしまうの？

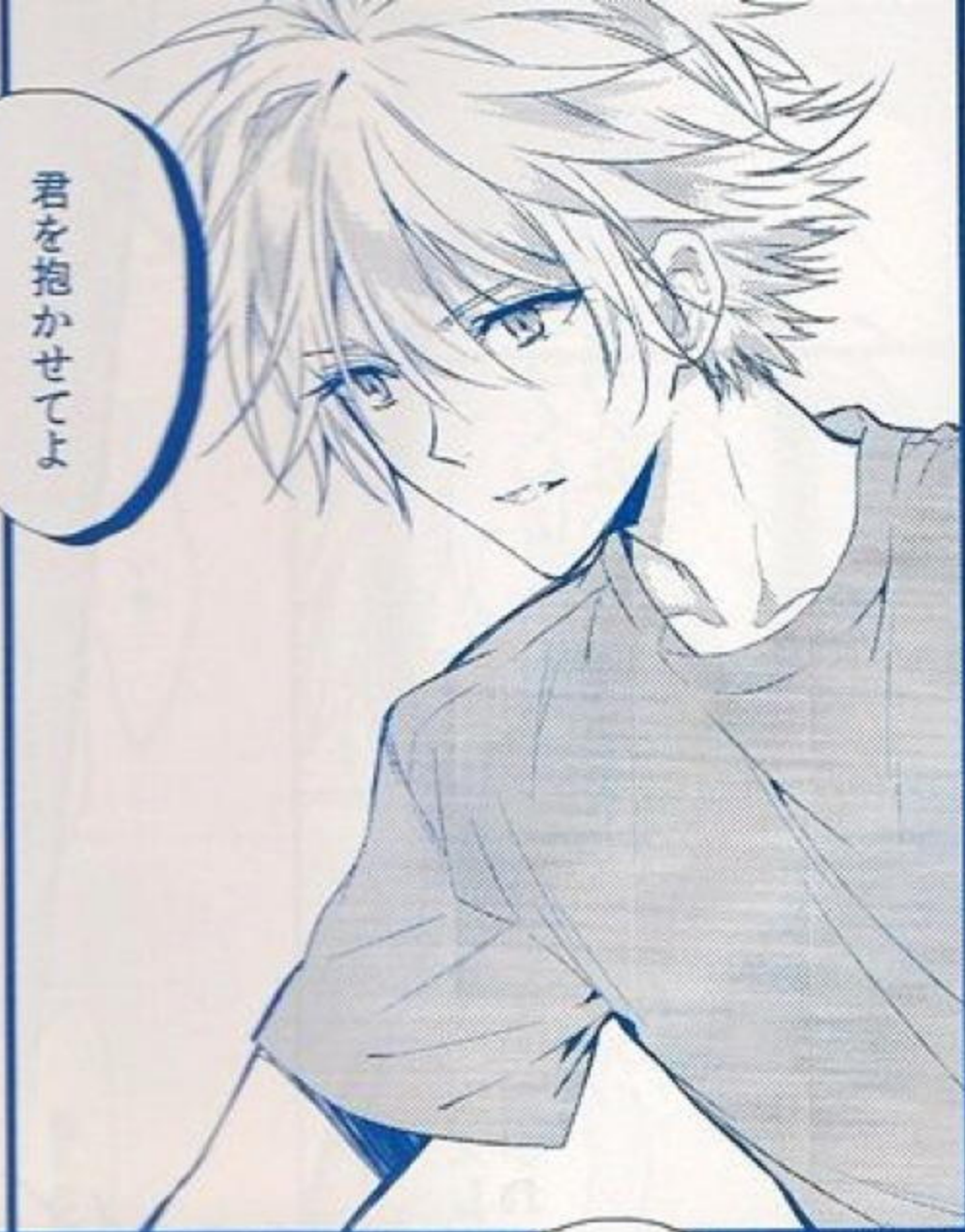
そんなのイヤだ…

僕は君の心に
渾力ヲルを刻み付けたい





君を抱かせてよ



君が僕を
好きじゃないのは
わかってる

でも僕が君を
想う気持ちは
どうやっても
消えてくれないんだ

だから...



形だけでもいい

僕が君を
愛した証を
君に刻み付けたい

ちよつと!

やめてよー

放せ！

これで
最後にするから……！

シンジくん
に
一生消えない深い傷跡を……

大人しく
抱かれてよ……

やめ……！





一回
イったね...

しょう...

カタ...

もうみないで...

カタ

カタ

カク

触らないで

カタ

君...
泣いてるの?

ヒクッ

かわいい

瞳が濡れて
キラキラしてる

やだ!

ギキ
ギキ

もう...

カク

もっと泣いて

これ見てよ
君がやらしくて
我慢できなく
なっちゃった

君のナカに
いれてあげるね

知らないの？

リリンは
オス同士でも
セックス
できるんだよ

無理だよ

そんなの
入るわけない

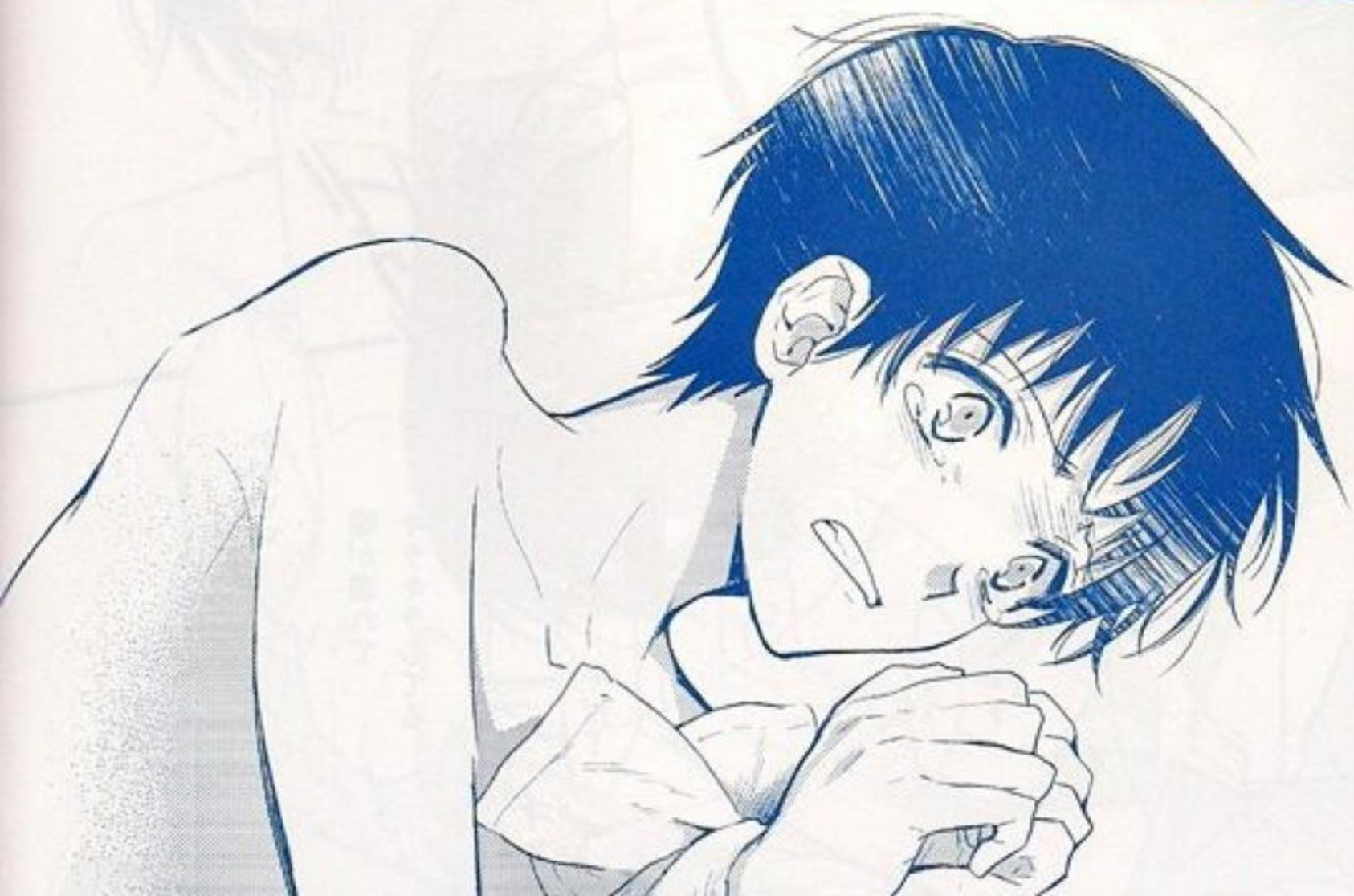
なぎぎ…っ

さー！

シッ
ギッ

くちゅ
くちゅ

ぱん







僕は
女じゃない！



あは

処女を犯すと
血が出るって
本当だったんだね



かあぁ



知ってるよ

リリンは繁殖以外の目的でも
セックスをする

快楽を得るために
愛を確かめるために

体を繋げて
気持ちも繋げる

僕の気持ちも
君と繋げたい

動くよ

んっ！

んんん

ぐ...

はあ

あっ...

う

声我慢しないでよ

ズズツ

やっ

あ

んや...

ちゃ

ちゃ

やめて

やめてよー

もう

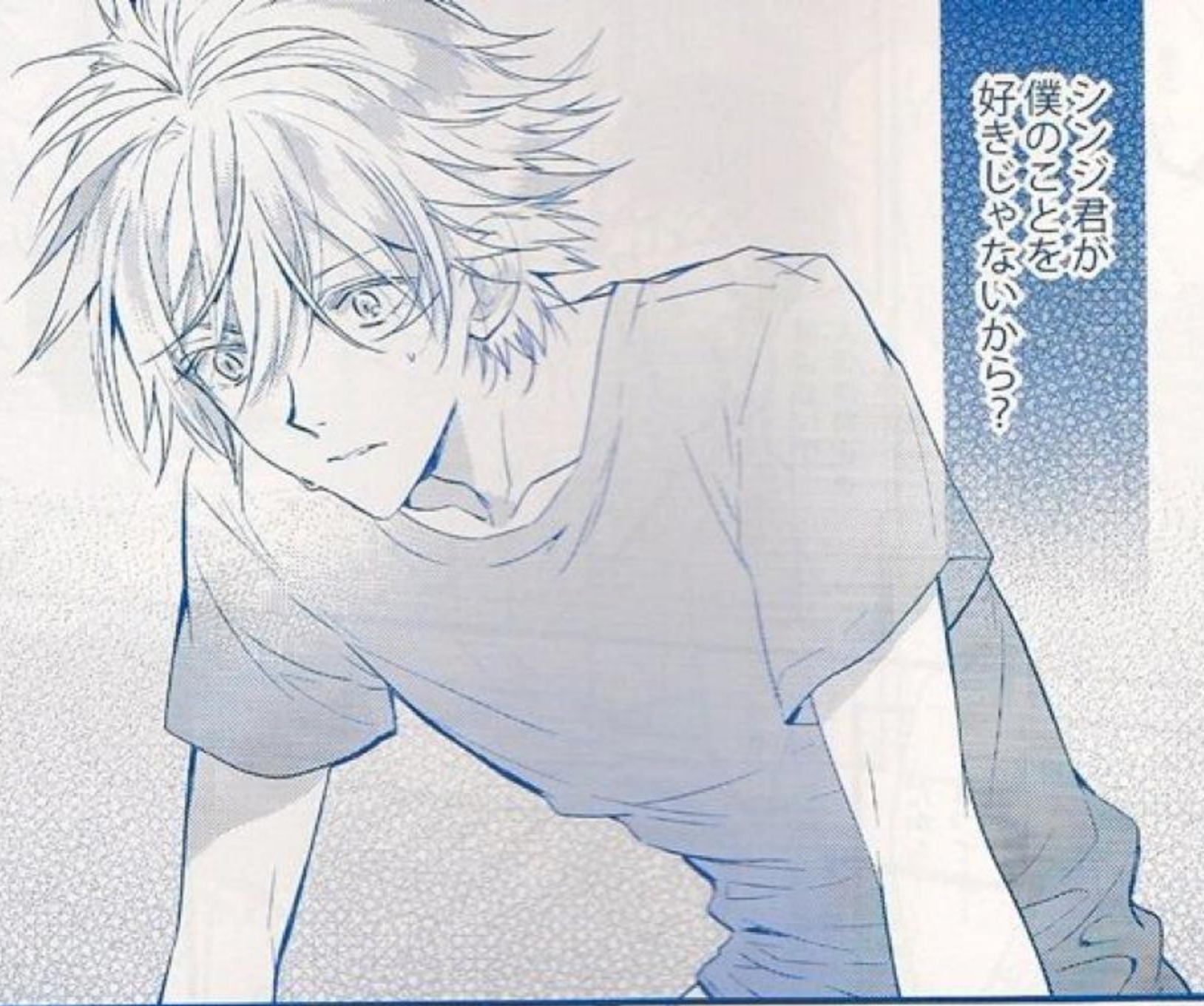
ん

つかまえても
つかまえても

シンジ君は
僕の愛から
逃げようとする



シンジ君が
僕のことを
好きじゃないから？



ねえ…
シンジ君



嘘でもいいからな



僕のこと
好きって
言ってよ





言わない



絶対に言わない！

もう放してよ！

いやだ！

君が好きって
言ってくれるまで
放さない！

だから…
言つてよ…
ねえ…

君ってやつは…

本気で…



最低だ…

最低…?

僕が?

なんで?

人の気持ちも
知らないで

自分のことばかり

最低以外の
何なんだよ!

最低…

それが
君の…答え…?

そう…

わかった…

ん
び

君が僕を
最低なヤツだって
思うなら

もう
それでいいよ

だから

君をめちやくちやに
してあげるよ

渚…!

だって
しょうがないよね

僕は最低なんだから…



すごいや

シンジ君の
血って
甘く感じる…



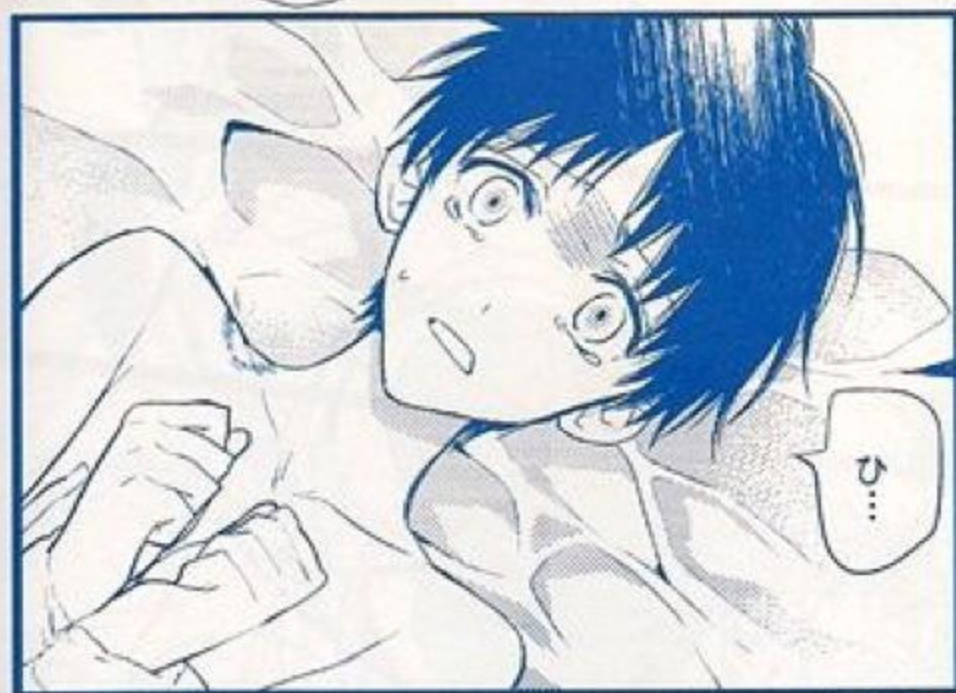
この前
自分の血を
舐めてみたときは
まずいって思ったのに

不思議だな

人体を
構成する成分は
一緒なのにねえ



ひ…



怖がらないでよ

僕は君を
味わいつくしたい
だけ…

めちやくちやに
犯して
体液をすすって





感じたくない!

あ

あーあ

あーあ

あーあ

あ

あ

ぐわんぐわん

ダメだよ
まだ足りない

だからね
全然足りないよ

君は僕を
忘れてしまう

君のナカが
僕の形を覚えるまで
犯さなきゃ

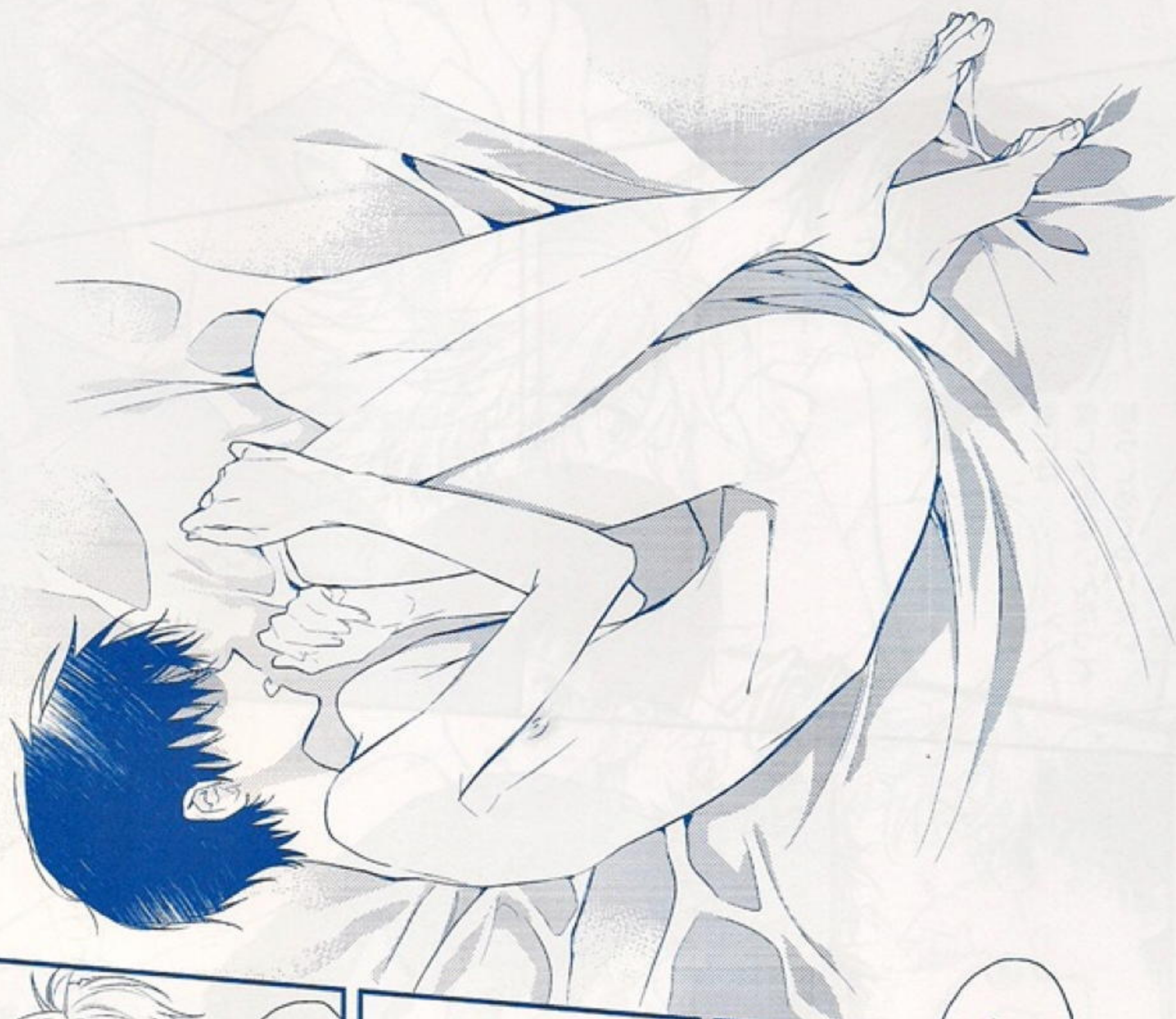
そう……
もつとだ……

もっと僕のこと
君をいっぱいにして

君には
僕しか居ないんだって
知らしめてやりたい

つながることの
快楽を

僕の心を
君で満たして



どうしてこんなに
虚しいんだろう



好きな人と
体を繋げたのに
なんで
満たされないんだろう

ねえ…
シンジ君

僕に
さわるな!

ばし

もう…

これ以上僕に
近づかないで

なんで…

好きだと言葉で
伝えても
態度で示しても
体を繋げても

なんで君は
僕を好きになって
くれないんだよ!



渚には
分からないさ

なにが？

僕の周りの人間は
皆居なくなる
離れていく

誰もずっと
一緒に
居てくれない

僕には分かる…
君もきっとそうなる

だから誰も
好きにはならない

君には
離れていく人を
見送るしかできない
僕の気持ちなんか
絶対に分からない



君は
信用できない

誰かを
好きになったら
僕はまた
傷つくって
分かってるんだ



シンジ君…

君が嘘でも
好きと言えないように

違うって…言えない



僕も
嘘でもずっと一緒に
居るなんて言えない…



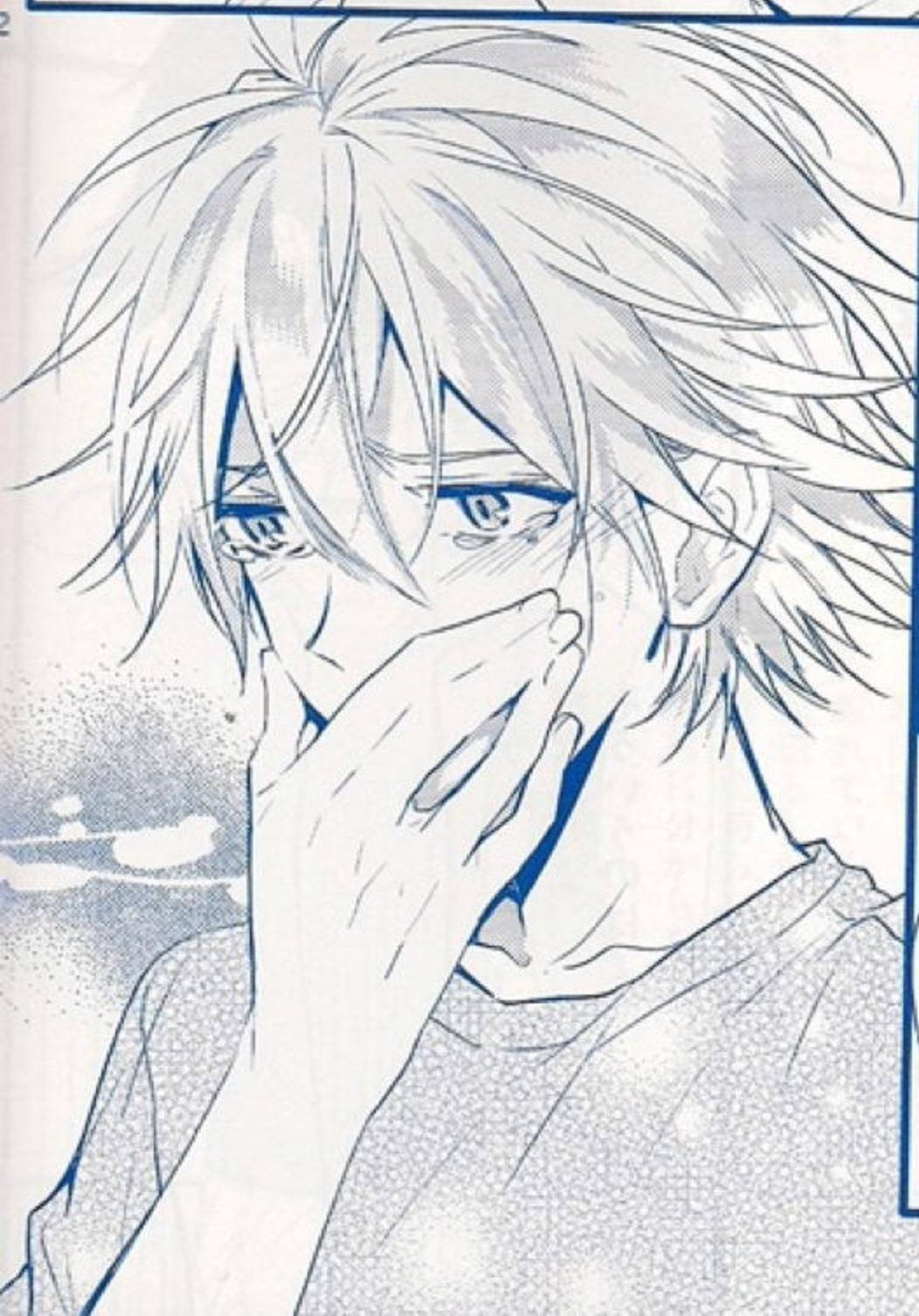
もう
嫌なんだよ
そういうのは！



だって今…
君に何も言い返せない
僕がいる



僕は
もうそろそろ
消える運命
シンジ君の傍には
居られない



どうして
君が泣くんだよ

ズルいよ…





僕のこと
嫌いになってよ…



やめてよ…



だって僕は
君に好きになって
もらいたい

セカンドや
ファーストのように
君の心の中に
ずっと棲んでいたい

忘れて欲しくない

でも
どうしようもないんだ
僕は死ぬその瞬間まで
君を思わずには
いられない



そんなの
無理だよ

どうしてさ…

聞きたくない！

嫌いになってよ！

好きで
ごめんね…

やめて…！

好きだよ

だから
僕のこと
も愛して







だから
僕のことも
愛して





僕いつの間にか
寝ちゃったんだ



渚は...



渚！

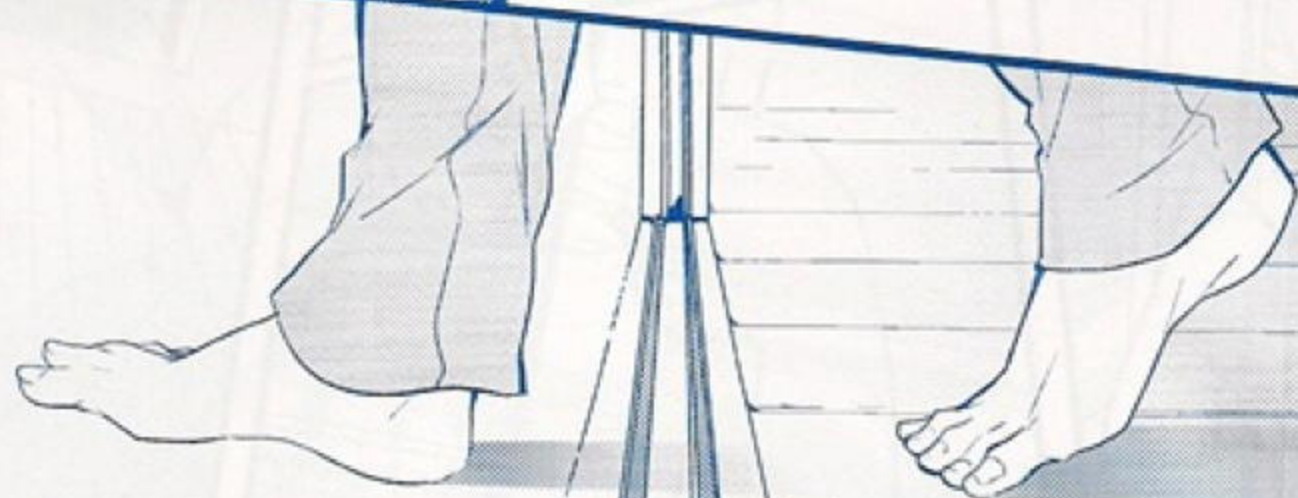


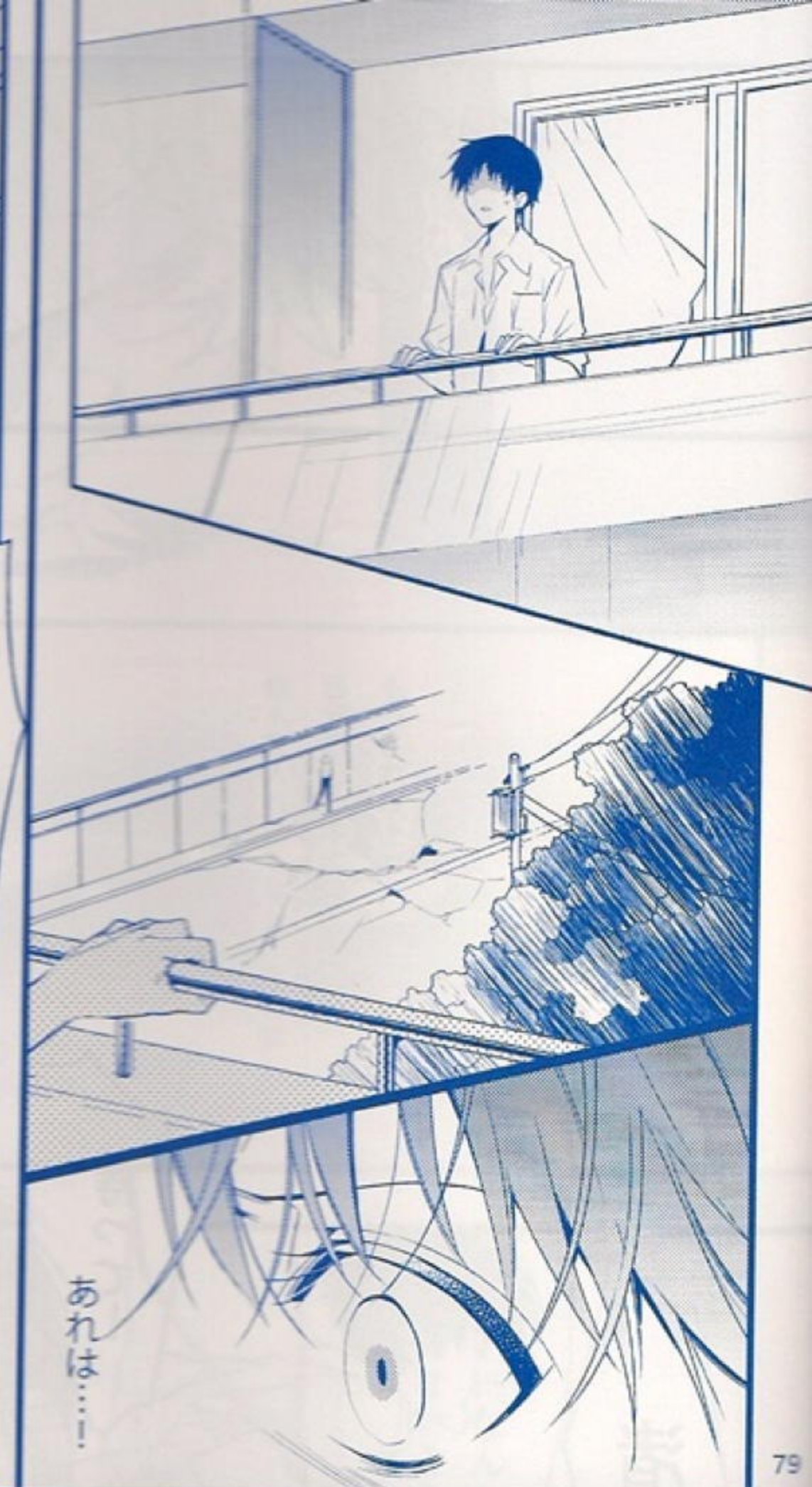
渚
どこだ！



渚！

なんで
どこにも
居ないんだよ







独りにしないで……

バカナギサ……!

もうこれ以上

自分の心の中に

他人を入れたくなかったのに

好きになんか

なりたくなかったのに

嫌いになんか
なれないよ……

渚……

はあ…
もう時間だ

タブリスとしての
僕の使命

それを果たせば
リリンの世界に
終わりが訪れる

ATフィールドを失い
自我という境界線の喪失

単一の生命体として
生まれ変わるといことは
個人の精神や肉体が
滅びること

その先に在るのは
甘い死だけ

僕はそんな世界は
好きになれないな

僕が君に刻んだ傷を
思い出を

どうか忘れないで

シンジ君は
シンジ君のままで
居て欲しい



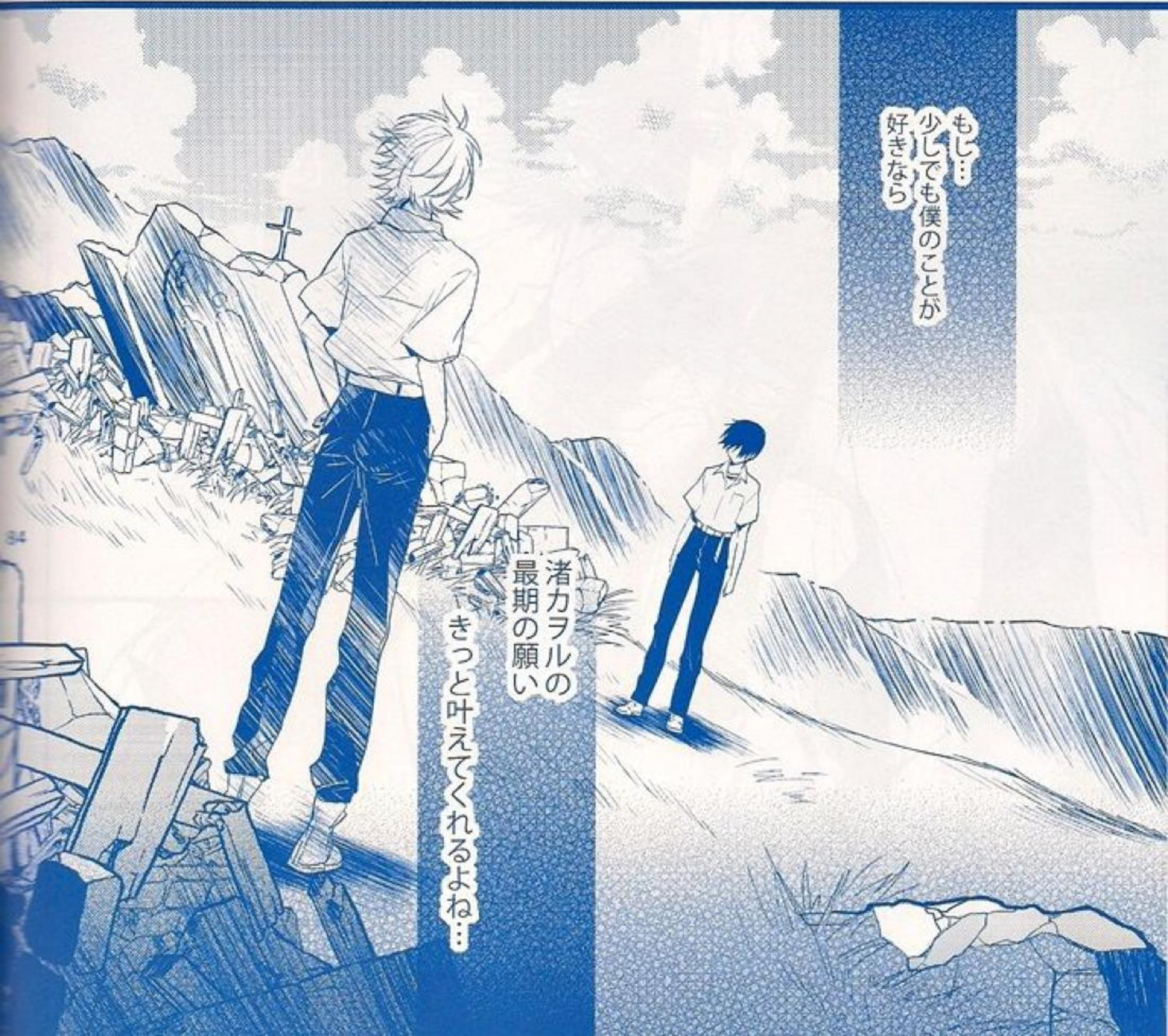
最期に君に
問いかけるとき

君はどんな
答えをくれるのだろうか…

もし！
少しでも僕のことを
好きなら

渚カヲルの
最期の願い

きっと叶えてくれるよね…



あとがき

初の貞カラシン本でした。
貞エヴァ原作沿いのお話で、少しだけ、
二人に最後の時間があったらというifストーリーでした。
シンジ君の渚に対する答えは、
最後に渚の願いを叶えてあげることに、
すべて集約されているんだと個人的には
思っているので、あえて、
一度も渚を好きって言わせないお話にしてみました。
また、貞カラシン描いてみたいです^^
次はパラレルものでラブラブでもいいかなと。

文月路亜



鉄錆
Tetsu-Sabi

